

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 10 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25244027

研究課題名(和文) 東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く

研究課題名(英文) Reading the Record of a Hundred Years of Intra-East Asian Conflict and Cooperation through Research in Audio-Visual Materials

研究代表者

貴志 俊彦 (Kishi, Toshihiko)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：10259567

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,400,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究では、近100年間に東アジア域内で起こった歴史的イベント、あるいは時代の画期となるトピックをとりあげ、それぞれの局面で登場した非文字史料が果たした役割とその受容者の解釈を検討した。国内外における広範な調査と成果発表にあたっては、複数の地域で製作された非文字史料を比較対照するとともに、(a)画像解釈学的分析、(b)語彙分析による情報処理、(c)コミュニケーション・パターン分析等を導入して、紛争・協調の時代イメージと非文字史料との因果関係を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：By rendering a century of landmark “incidents” and historical epochs in East Asian history into a discreet number of topics, this collaborative research project aimed to investigate the functions and reception of audio-visual historical materials in light of these seemingly contradictory impulses. Regarding specific methodology, we have conducted comparisons of audio-visual materials produced throughout the region by (a) adopting the methods of visual studies analysis, (b) analyzing information through content analysis of language; and (c) introducing communications-patterns analysis in order to clarify the cause-and-effect relationship between the image of conflict and cooperation for each epoch and its audio-visual historical materials.

研究分野：歴史学

キーワード：東アジア 非文字史料 日中戦争 冷戦 表象 コメモレーション 地域紛争 メンタリティ

1. 研究開始当初の背景

20世紀以降の日中、日台、日韓関係をみると、伝達あるいは伝播されるニュースや情報が、発信側と受容側との間で、自己利益あるいは自己解釈によって、“ねじれ”現象を起していることに気付く。ときに、それがナショナリズムやエスノセントリズムに起因するとも思える国民感情の発露や反発に面食らう一方で、過度な善意を見聞することに対して同様に戸惑いを覚える。こうした現象は、いまに始まったことではなく、近100年の東アジアの歴史を通じて、どの時代、どの地域でも見られたことでありながら、いつも問題の解決には困難をともなってきた。

本研究は、東アジア域内で発生した現実の紛争・協調といった事象を、図画像資料、映像資料、音声資料などと関連付けて、これら非文字史料が事象発生の原因や影響に如何なる役割を果たし、受容者がいかに解釈したのかを検証することを目的とした。ここで非文字史料に注目するのは、1980年代以来、歴史学においても、こうした表象メディアが果たす役割の重要性は指摘されてきたが、この種のメディアが時として活字メディアよりも、受容側が抵抗なく受け入れ、また個人的思惟で解釈しやすいためである。

そのため、非文字史料を表象論的にとりあげるだけでなく、コミュニケーションの“ねじれ”現象の基幹的要因と考えられる個人のメンタリティや集合的記憶(コメモレーション)についても考察する必要がある。こうした課題のもと、情報がどのように生成、伝播、解釈、受容され、どのような場合に“ねじれ”が起こるのか、さらに情報が越境するなかで相互イメージがいかに形成されて対外認識として定着するのかについて構造的に解明する必要性があった。

2. 研究の目的

本研究は、これまで東アジア史あるいは国際関係史の枠組みで捉えられてきた紛争・協調問題について、非文字史料の解釈を軸に分析しようとする点に独創性がある。実際、東アジア域内では、歴史認識問題や領土問題を契機として、相互イメージが悪化し、さまざまな面で緊張した局面が発生している。この種の政治的、社会的な対立が激化する一方で、各地では協調、融和的な社会を築こうとする意識が働きつつあることも忘れてはならない。本研究では、近100年間に東アジアで起こった歴史的事件、あるいは時代の画期となるトピックをとりあげ、それぞれの局面で登場した非文字史料が果たした役割とその受容者の解釈を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 海外との研究交流を促進させるため、共同研究組織を、統括班、日本本土/沖縄班、中国/香港班、台湾班、韓国/朝鮮班に分け、それぞれが海外共同研究者と協働して調査、

検証、分析をおこなった。また、この共同研究は、財団法人東洋文庫、京都大学人文科学研究所、同地域研究統合情報センターと連携して進めることが保証されていた。

(2) 主な研究リソースは、東アジアで発行されたグラフ雑誌(画報)をはじめ、比較的手取りが容易な絵はがき、ポスター、映画、録音盤、年画(中国民間絵画)、風刺画のほか、国内外の資料館に所蔵されている図画像資料、動画資料、音声資料である。これらを用いた具体的な検証課題は、以下のとおり。

当事者が発行する複数の非文字史料を比較対照し、描かれたイメージに対して図像解釈学的手法でもって、背後にある歴史的意識の違いを解読する。

音声資料については、話し言葉の語彙の規則性に注目しつつ、発出者と受容者とのコミュニケーション・パターンの分析を試み、両者の間で起こる“ねじれ”現象を検出する。

誤解/歪曲がおこる表象パターンを明らかにし、そこに込められた受容者のメンタリティや集合的記憶について検討する。

表象イメージの数量分析を試みるために、表象イメージを文字化し、出来事と表象との関係の特徴づける。

各国の広報・通信機関による情報の規制と非文字史料表現との関係を取り上げる。

(3) 本研究では、下記の通り20世紀をA~Jの10の時期に区分し、各時期の特徴的な出来事を軸に、各種の非文字史料に対して、マルチアーカイブ・アプローチを模した非文字史料の比較解釈を実践する。とくに、時代のエポック・メイキングとなる事項に対する異文化間の解釈の“ねじれ”を検証するために、受容者のメンタリティや、図像、動画、音声が発起する集合的記憶に留意することが要となる。

= 紛争・協調検証のための10の時期区 =

- A [1900年代] 日露戦争; 朝鮮の義兵闘争
- B [1910年代] 日韓併合; 三一運動; 五四運動
- C [1920年代] 中国の日貨排斥運動; 日本軍の山東出兵; 朝鮮の民族解放運動
- D [1930年代] 満洲国問題; 中国の抗日運動; 日中戦争; 朝鮮・台湾の皇民化運動
- E [1940年代] 太平洋戦争; 終戦; 引揚; 朝鮮半島・台湾の「光復」; 琉球の米軍支配
- F [1950年代] 中華人民共和国と台湾国民政府; サンフランシスコ講和条約; 朝鮮戦争; 日華条約; 米国の対アジア文化冷戦
- G [1960年代] LT(MT)貿易; 周鴻慶事件; 文化大革命; 日韓基本条約
- H [1970年代] 沖縄返還; 日中国交正常化/日台断交; 金大中事件と文世光事件
- I [1980年代] 韓国・台湾の戒厳令解除と天安門事件; 歴史教科書問題~靖国神社問題
- J [1990年代] 中韓国交正常化と日韓共同宣言と日中共同宣言

4. 研究成果

(1) 海外大学との共同研究の実施:

ラファイエット大学(アメリカ)とは、Linked Archive of Asian Postcards の構築を進めた。

中国の各大学とは、毎年「東亜学術論壇」を立ち上げ、巡回シンポジウムを実施した。

ボン大学(ドイツ)が主催するプロジェクト“Northeast Asia from the 19th Century to the Present”の日本側パートナーとして、夏季セミナー、ワークショップに協力した。

(2) 海外での研究成果の公表:

研究メンバーは、アメリカ(ハーバード大学イェンチン図書館、ジョージタウン大学異文化センター、ラファイエット大学)、カナダ(トロント大学、プリティッシュ・コロンビア大学)、ドイツ(ボン大学、ハイデルベルク大学)、イギリス(オックスフォード大学)、デンマーク(オーフス大学)、ロシア(サンクトペテルブルク大学、サハリ州郷土博物館、サハリ州歴史文書館)、中国(北京中国人民外交学会、華東師範大学、哈爾濱師範大学、香港中文大学)、台湾(中央研究院台湾史研究所、国立政治大学、国立交通大学、金門大学)、韓国(東亜大学)などで研究成果の発表をおこなった。

(3) 成果刊行物の出版:

本共同研究メンバーは、下記のとおり、国内外でさまざまな論文・著作を公表してきた。なかでも、戦後70年間非公開扱いだった京都大学人文科学研究所が所蔵する華北交通写真資料を検証した貴志俊彦・白山真理編『京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真資料集成』(国書刊行会、2016年)の刊行は、本共同研究の白眉であると考えている。

(4) データベースの構築:

本共同研究で対象とする研究資料を共有化するために、人間文化研究機構現代中国地域研究東洋文庫拠点とともに、『亜細亜大観』データベース(1926年-1940年頃)、雑誌『北支』データベース、『亜東印画輯』データベースを構築・公開した。

(5) 展覧会の開催:

本共同研究の成果を一般公開するために、日本カメラ博物館と共同で特別展「秘蔵写真 伝えたかった中国・華北 京都大学人文科学研究所所蔵華北交通写真」(2016年)、神戸華僑歴史博物館と共同で春節祭特別展「神戸華僑の戦後70年 神戸中華同文学学校の行事写真を中心に」(2015年)を開催した。

(6) 教育現場への還元:

本共同研究の成果を教育現場に還元することも怠らなかった。ここでは、2016年12月に寧波大学外語学院大学院日語語言文学

学科にて実施した集中講義「日本戦後史」のみあげておきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計38件)

貴志 俊彦、戦争と平和のメディア表象 満鉄発行のグラフ誌を手がかりとして、土田哲夫編『近現代東アジアと日本 交流・相剋・共同体』中央大学出版部、査読なし、2016、pp. 151-178

貴志 俊彦、1970年代東アジアにおける広帯域通信ネットワークの形成 沖縄-台湾間海底ケーブルの建設を契機として、村上衛編『近現代中国における社会経済制度の再編』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、査読有、2016、pp. 429 - 467

川島 真、Postwar Japan-China Relations: A Consideration from the Perspective of Reconciliation, Asia Pacific Review, 査読有, Volume 22, Issue 2, 2015, pp. 28-43

川島 真、メディア・歴史認識・国民感情、川島真編著『チャイナ・リスク』岩波書店、2015、285-307

川島 真、歴史的視座から見る日中関係、東亜、査読無、559号、2014、pp. 20 - 28

[学会発表](計65件)

石川 禎浩、Mao: Unknown Images before the RED STAR OVER CHINA, International Workshop on "Beyond the Sinosphere. Modalities of Interwar Globalisation: Internationalism and Indigenization among East Asian Marxists, Christians, and Buddhists, 1919-1945, 2016.7.15、ハノーヴァー(ドイツ)

貴志 俊彦、Reading the Record of a Hundred Years of Intra-East Asian Conflict and Cooperation through Research in Audio-Visual Materials, Public Symposium: Media Cultures of Wartime and Postwar East Asia The Asian Studies Program, 2015.9.15、ワシントンDC(アメリカ)

貴志俊彦、盧溝橋事変前後の満鉄弘報宣伝誌における表象表現 東亜的歴史、現在與未来 文化交流と相互認識 東亜学術論壇 2015、2015.8.25、哈爾濱市(中国)

石川 禎浩、The Early Global Reception of Images of Mao, Global China: The China Postgraduate Network Annual Conference, 2015.7.2、プリストル市(イギリス)

貴志 俊彦、第二次世界大戦期間画報中

有關「事变」與「開發」的媒体表象：以滿鉄發行的《滿洲画報》、《北支画刊》為線索、「終戰七十年週年：日本帝國及其殖民地的戰爭動員與視聽傳播」學術研討會、2015.5.16 台北市（台灣）

川島 真、1970-80 年代中華民國對外宣傳 以國際新聞片為主的初步探討、「影像與史料：影像中敵近代中國」國際學術研討會、2014.10.12、台北市（台灣）

貴志 俊彦、非文字資料から解析する近現代滿洲史研究の可能性、ボン大学 2014 年度夏学期公開リレー講座「Die Mandschurei in Vergangenheit und Gegenwart（滿洲の過去と現在）」、2014.6.5、ボン（ドイツ）

貴志 俊彦、総説あるいは総論：「20 世紀滿洲」という視点、『二〇世紀滿洲歴史事典』韓日合同書評国際会議、2014.3.14、釜山（韓国）

〔図書〕（計 20 件）

武田 雅哉、平凡社、『中国のマンガ 連環画の世界』、2017、370

川島 真、岩波書店、中国のフロンティア 揺れ動く境界から考える』2017、240

貴志 俊彦 他、国書刊行会、京都大学人文科学研究所蔵 華北交通写真資料集成（全 2 巻）2016、778（論考編 39-62、写真編 261-443）

石川 禎浩、臨川書店、赤い星は如何にして昇ったか 知られざる毛沢東の初期イメージ、2016、278

貴志 俊彦、川島 真 他、勉誠出版、増補改訂 戦争・ラジオ・記憶、2015、632（26-146、231-249、296-315、372-391、505-535）

貴志 俊彦、吉川弘文館、日中間海底ケーブルの戦後史 国交正常化と通信の再生、2015、254

陳 來幸、京都大学出版会、近代中国の総商会制度、2015、309

貴志 俊彦、岩波書店、東アジア流行歌アワー 越境する音 交錯する音楽人、2013、288

川島 真 他、東京大学出版会、対立と共存の歴史認識 日中関係 150 年、2013、445（97-126）

〔その他〕

『亜細亜大観』データベース（1926 年 1940 年頃）2015 年 3 月公開

<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib4/>

雑誌『北支』データベース、2015 年 3 月公開

<http://124.33.215.236/research/hokushi/hokushi.php>

『亜東印画輯』データベース、2014 年 3 月公開

<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib3/>

東アジア非文字資料研究グループ
（Members Only）2013 年 4 月公開
<https://www.facebook.com/groups/129560458391731/?ref=bookmarks>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

貴志 俊彦（KISHI, Toshihiko）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：10259567

(2) 研究分担者

石川 禎浩（ISHIKAWA, Yoshihiko）

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：10222978

川島 真（KAWASHIMA, Shin）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：90301861

武田 雅哉（TAKEDA, Masaya）

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40216908

陳 來幸（CHEN, Laixing）

兵庫県立大学・経済学部・教授

研究者番号：00227357

(3) 連携研究者

柴山守（SHIBAYAMA, Mamoru）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・研究員

研究者番号：10162645

松本ますみ（MATSUMOTO, Masumi）

室蘭工業大学・ひと文化系領域ト・教授

研究者番号：30308564

孫 安石（Son, Ansuk）

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：30321954

大澤 肇（OSAWA, Hajime）

中部大学・国際関係学部・講師

研究者番号：0046936

小林 聡明（KOBAYASHI, Somei）

日本大学・法学部・講師

研究者番号：00514499

谷川 竜一（TANIGAWA, Ryuichi）

金沢大学・新学術創成研究機構・助教

研究者番号：10396913

(4) 研究協力者

菊地 暁（KIKUCHI, Akira）

京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：80314277

富澤 芳亜 (TOMIZAWA, Yoshia)
島根大学・教育学部・教授
研究者番号：90284009

泉水 英計 (SENSUI, Hidekazu)
神奈川大学 経営学部 教授
研究者番号：20409973

西村 陽子 (NISHIMURA, Yoko)
東洋大学・文学部・准教授
研究者番号：70455195

李 梁 (RI, Ryo)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：20281909